

「外国人学校における保健衛生環境整備事業 全国プラットフォーム事業」

令和5年度 成果報告書

令和6年3月31日
メディフォン株式会社

目次

1. 本事業の経過について	2
(1) 本事業の実施背景	2
(2) 令和5年度の実施計画	2
2. 事業の進捗・成果について	3
(1) 多言語での情報発信等	3
(2) 多言語での外国人学校の保健衛生に係る相談対応	7
(3) 外国人学校向けガイドライン等への助言及び多言語翻訳等	7
(4) セミナーや研修会等の開催、及び現地での外国人学校への相談対応	8
(5) 外国人学校の保健衛生の確保に有益な情報の収集・整理	23
(6) 成果報告書の作成、及び成果の普及促進	24
3. 今後の課題について	28

1. 本事業の経過について

(1) 本事業の実施背景

外国人学校は、専ら外国人の子供の教育を目的とした施設であり、各種学校として認可されている学校に加え、認可を受けていない認可外施設が存在する。各種学校認可を受けた外国人学校は国内に126校存在し、25,960名の幼児・児童・生徒が在籍している（令和3年5月時点）。認可外施設については、文部科学省が実施した私立学校調査において都道府県から報告があった33施設（令和3年5月時点）、国際的な評価機関の認定を受けている44施設（令和3年11月時点、都道府県から報告がなかったもの）、ブラジル政府からの認可校として6施設（令和3年5月時点、都道府県から報告がなかったもの）、その他外国人学校向けメールマガジンに登録のあった6施設（令和3年5月時点、都道府県から報告がなかったもの）の存在が把握されている。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した時期には、外国人学校においても感染者やクラスターが発生したが、外国人学校は、学校教育法第一条に定められる学校（いわゆる「一条校」）と異なり、学校保健安全法の適用外となっており、保健衛生対策は各設置者に任されている。令和3年度に文部科学省が行った調査では、保健室の設置や健康診断の実施ができていない施設も一部存在するなど、課題が明らかとなった。

弊社では、言語の障壁により、外国人学校の職員・生徒が日本における保健医療に関する情報を取得することが難しい状況にあると認識している。さらに、医療機関の探し方がわからない、日本の医療制度や医療機関への受診の方法がわからない等、文化・風習の違いによる課題もあると認識している。

上述のような新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に顕在化した外国人学校の保健衛生環境に係る現状及び課題の整理、並びに改善策の検討のため、令和3年度に文部科学省において「外国人学校の保健衛生環境に係る有識者会議」が開催された。弊社では、文部科学省からの委託を受け、本有識者会議の最終とりまとめの内容を踏まえながら、外国人学校の保健衛生の確保に向けた全国的な情報発信や一元的相談窓口等の企画・運営を行った。

(2) 令和5年度の実施計画

令和4年度に構築されたウェブサイト等の事業基盤を活用し、さらに広範囲の関係者への周知を行いながら、ニーズが高いと予想される外国人集住都市の関係者（地方自治体、外国人学校）にヒアリングを行うほか、研修会等を通じて関係者が対面でも交流できる機会を作り、事業効果が高まるように取組を進める。

2. 事業の進捗・成果について

令和4年度は、12月の事業開始後、多言語相談窓口開設や英語・ポルトガル語を揃えた多言語情報サイトの立ち上げ、広報用のチラシ（多言語版）の作成等を行ったほか、多言語情報サイトをプラットフォームとして、相談窓口・事務連絡のお知らせ・セミナー開催などのコンテンツを用意した。また、事業周知のため、外国人学校及び都道府県や市区町村、国際交流協会の関係部署に対し、作成したチラシを使用して広報を行った。

令和5年度は、各種イベントでの広報活動を展開したほか、外国人学校・地方自治体・関係団体等への訪問及びヒアリング調査に加えて、駐日外国公館に対するアンケート調査の実施により、外国人学校が抱えるニーズや課題など実態を把握することに重点を置いて取り組んだ。また、外国人学校向けにセミナーを3回開催し、保健衛生に係る理解の向上及び取組の共有を行ったほか、外国人学校向けに啓発資料を作成した。

(1) 多言語での情報発信等

(ア) 事業周知の広報活動

本事業の周知及び広報を行うため、外国人学校・国際交流協会等へ電話及び訪問にて案内を行った。広報活動を行った際、事業案内と並行して「(2)多言語での外国人学校等の保健衛生に係る相談対応」及び「(5)外国人学校の保健衛生の確保に有益な情報の収集・整理」のためのヒアリング調査も行った。

		リスト総数	電話	メール	郵送	訪問
全体		663	481	220	198	18
外国人学校		139	57	95	66	9
地方自治体	計	432	337	92	95	6
	保健	145	124	22	42	1
	国際	144	111	52	27	3
	教育	143	102	18	26	2
国際交流協会		92	87	33	37	3

加えて、以下のとおり国際教育博への出展を通じた広報等を行った。

【国際教育博の概要】

タイトル	International Education EXPO 国際教育博 テーマ：脳から考える国際教育
開催日時	令和5年5月13日（土）10:00～17:00
場 所	昭和女子大学 昭和キャンパス（東京都世田谷区太子堂 1-7-57）
参加対象	幼児、小学生、中学生、高校生、大学生など
主 催 者	インターナショナルスクールタイムズ
出展目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターナショナルスクール関係者と関係構築し、本事業の周知、利用促進及び事業に関するフィードバックの取得を目指す。 ・ メディア関係者に本事業を周知し、事業の認知向上を狙う。

【出展ブースの様子】



【出展結果】

- ① 取得した連絡先 計 27 件
 - ✓ 外国人学校関係：8 件（うち、メルマガ登録 6 件）
 - ✓ その他教育関係：11 件（うち、メルマガ登録 5 件）
 - ✓ メディア関係：8 件
- ② 事業チラシ等の配布枚数
 - ✓ 事業チラシ（日本語：12 枚、やさしい日本語：9 枚、英語：20 枚、ポルトガル語：1 枚）
 - ✓ 事業概要資料：26 枚
- ③ ヒアリング内容
個別にヒアリングできた内容は以下のとおりである。
 - ✓ 保健担当者に紹介する。
 - ✓ 全寮制のため、寮でコロナウイルス感染者が出た際対応に困った。
 - ✓ 一条校のため文科省から事務連絡は届くが、（挨拶した担当者は日本語話者ではないため）英語での情報発信はありがたい。
 - ✓ 保護者への情報共有へ協力する。保護者への周知には、よりわかりやすい配布物があると良いのではないか。
 - ✓ 担当者の娘が通うインターナショナルスクールで、陰性証明書や濃厚接触者の定義等が日本人の認識とインターナショナルスクールの認識で異なったため、トラブルになった。

【出展の成果と今後に向けた対応】

- ① インターナショナルスクール関係者との関係構築
 - ✓ 来場者の約 9 割がインターナショナルスクールに関心のある子供および保護者であったため、本事業のアプローチ先となる外国人学校関係者の来場は少なかったが、出展したインターナショナルスクールの関係者の大半と対面でコンタクトを取ることができた。結果として、外国人学校関係・その他教育関係者合わせて 19 件の連絡先（うちメルマガ登録 11 件）を取得することができた。
 - ✓ これまでコンタクトを取ることができていなかった外国人学校関係者につながる事ができた。既に連絡を取っていた施設に対しても、直接事業を紹介する機会となり、周知に繋がった。
 - ✓ 対面によるヒアリングを行えたことで、インターナショナルスクールの保健衛生に関する課題や事業への生の意見等をうかがえた。

- ② 外国人学校関係者・保護者向けの情報発信や制作物の検討
- ✓ 外国人学校関係者より、保護者向けのわかりやすくかつ実用的な内容のチラシ等があれば案内しやすいとの意見があった。
 - ✓ 外国人学校関係者及び保護者に事業を周知し、活用していただくため、1枚で要点が理解できるチラシ等や、短い動画の作成など、利用対象に理解・活用されやすい情報発信や制作物の作成の可能性について検討したい。
- ③ メディア関係者との接触
- ✓ メディアブリーフィングにて、メディアの方は関心を持って取材をいただけたほか、出展したブース内で接点があったメディアの方々にも関心を寄せていただけたと考える。
 - ✓ 今後もメディアの方々との接点を活用して、本事業における周知先としている外国人学校関係者および地方自治体関係者等にも届くよう努めていきたい。

(イ) 「文部科学省外国人学校向け保健衛生情報サイト」多言語情報サイト内容

文部科学省の通知等を以下のとおりウェブサイトへ掲載し、情報発信を行った。

【ウェブサイトへの掲載一覧】

掲載年月日	カテゴリー	タイトル
R5. 4. 12	お知らせ	本事業に関する「令和4年度成果報告書」掲載のお知らせ
R5. 5. 2	コロナ関連	学校保健安全法施行規則の一部改正について（通知）
R5. 5. 2	コロナ関連	5類感染症への移行後の学校における新型コロナウイルス感染症対策について（通知）
R5. 8. 2	学校保健	学校教育活動等における熱中症事故の防止について
R6. 3. 22	ページ追加	中国語（簡体字、繁体字）版ページの公開
R6. 3. 22	お知らせ	「外国人学校向け参考資料：学校保健の取組について」多言語資料公開のお知らせ

(ウ) ウェブサイトへのアクセス数実績

昨年度にウェブサイトを立ち上げて以降、展示会出展や各種通知のお知らせなど新しい情報を掲載し、随時情報発信を重ねてきたことで、今年度上半期はユーザー数及び閲覧数ともに順調に向上し、下半期も高い水準を維持している。

【ウェブサイトの令和5年度アクセス状況】（令和6年3月25日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ユーザー数	701	2,840	2,384	2,881	3,771	6,303
閲覧数	1,549	4,647	3,554	3,724	5,207	8,253

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ユーザー数	4,214	3,308	3,420	4,873	4,050	2,663
閲覧数	5,933	4,514	4,750	6,654	5,594	4,162

(エ) メールマガジン登録者数及び発出一覧

登録メールアドレスは763件（令和6年3月25日時点）、メールマガジンの登録件数は631件（令和6年3月25日時点）となっている。また、今年度は、23件（令和6年3月末時点）のメールマガジンを発出した。

【メールマガジン登録数】（令和6年3月25日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録数	549	571	572	578	580	582
前月からの増減	9	22	1	6	2	2
増減内訳	新規：9	新規：23 停止：1	新規：3 停止：2	新規：6	新規：2	新規：3 停止：1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録数	606	606	623	625	625	631
前月からの増減	24	0	17	2	0	6
増減内訳	新規：24	新規：1	新規：18	新規：2	新規：0	新規：7 停止：1

【メールマガジン発出一覧】

発行年月日	タイトル
R5. 3. 31	【3号】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム メールマガジン（感染不安の相談があった児童生徒に係る留意事項について）
R5. 4. 11	[No.2 E-mail Newsletter/ Boletim Informativo Eletrônico] MEXT Platform Project for Health & Hygiene in Schools for Foreign Students
R5. 4. 17	[No.3 E-mail Newsletter] MEXT Platform Project for Health & Hygiene in Schools for Foreign Students
R5. 4. 24	[No.3 Boletim Informativo Eletrônico] Plataforma de Saúde e Higiene da Escola de Estrangeiros do MEXT
R5. 5. 2	【4号】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム メールマガジン（5類感染症への移行後の学校における新型コロナウイルス感染症対策について、他）
R5. 5. 19	[No.4 E-mail Newsletter. Boletim Informativo Eletrônico] MEXT Platform Project for Health & Hygiene in Schools for Foreign Students
R5. 6. 9	【5号】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム メールマガジン（英語・ポルトガル語版ガイドラインの掲載）
R5. 6. 15	[No.5 E-mail Newsletter. Boletim Informativo Eletrônico] MEXT Platform Project for Health & Hygiene in Schools for Foreign Students
R5. 7. 5	【6号※日本語/English/Português】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム メールマガジン（MEXT）
R5. 8. 2	【7号】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム メールマガジン（学校教育活動等における熱中症事故の防止について）
R5. 8. 21	[No.7 E-mail Newsletter. Boletim Informativo Eletrônico] MEXT Platform Project for Health & Hygiene in Schools for Foreign Students
R5. 9. 28	【10/19 セミナー開催 Seminar/Seminário】「明日からはじめる学校での保健衛生対策（MEXT）」※オンライン/参加無料
R5. 10. 17	【今週開催！10/19 セミナー Seminar/Seminário】「明日からはじめる学校での保健衛生対策（MEXT）」※オンライン/参加無料
R5. 11. 22	【12/7 セミナー開催 Seminar/Seminário】「こどもの健康を守るために健康診断が果たす役割（MEXT）」※現地会場あり/参加無料
R5. 11. 29	[12/7 Seminar/Seminário] Health Checks play a Role in Protecting Children's Health/ O Papel dos Exames de Saúde para a Proteção da Saúde das Crianças (MEXT)

R5. 12. 5	【今週開催！12/7 セミナー Seminar/Seminário】「こどもの健康を守るために健康診断が果たす役割 (MEXT)」※参加無料
R6. 1. 30	【アーカイブ動画配信のお知らせ Information/Informações】10/19・12/7 開催 保健衛生情報セミナー (MEXT)
R6. 2. 2	【3/5 セミナー開催 Seminar/Seminário】「教職員全員で知っておきたいアレルギーと食中毒の基礎知識 (MEXT)」※オンライン/参加無料
R6. 2. 26	[Aviso] Seminário dia 5 de março (Online / de graça) ※日本語・英語もあります MEXT
R6. 3. 1	【アンケート/Questionnaire/Questionário】外国人学校・インターナショナルスクールの皆様へ 外国人学校保健衛生プラットフォーム (MEXT)
R6. 3. 4	【明日開催！3/5 セミナー Seminar/Seminário】「教職員全員で知っておきたいアレルギーと食中毒の基礎知識 (MEXT)」※オンライン/参加無料
R6. 3. 21	【アーカイブ動画配信のお知らせ Information/Informações】3/5 開催 保健衛生情報セミナー (MEXT)
R6. 3. 22	【8号】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォームメールマガジン (資料公開のお知らせ)
R6. 3. 22	【8号・中文版】文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォームメールマガジン (資料及び中国語版ページ公開のお知らせ)

(2) 多言語での外国人学校の保健衛生に係る相談対応

メール及び電話で期間中4件受け付けた。内訳等は以下のとおりである。

【相談の内訳】

手段	属性	内容
メール	学校	学校での保健指導にあたり、日本の学校保健関係の問合せ先を知りたい
電話	学校	① 学校法人ではないが、事業の対象か ② コロナ5類移行後の生徒への対応
電話	学校	吹奏楽の演奏時にマウスピースを共有するのは問題ないか
電話	学校	学校医が不特定多数の生徒の使用目的で処方を行うこと、およびそのような状態で処方された薬剤をスクールナースの独断で使用するの是非

(3) 外国人学校向けガイドライン等への助言及び多言語翻訳等

令和5年度は、原稿73件について、英語・ポルトガル語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）の4言語への翻訳（計124件）を実施した。

また、外国人学校向けの啓発資料として、以下のとおり日本の学校保健の取組の概要を紹介する資料を作成した（翻訳作業については、上記の翻訳件数に含む）。

タイトル	外国人学校向け参考資料：学校保健の取組について
項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健とは ・ 学校保健に関わる人々 ・ 保健室とは ・ 保健管理とは ・ 保健管理活動の紹介 ・ 保健教育とは
発行日	令和6年3月22日

協力者

- ・ 浅野 明美 全国養護教諭連絡協議会 顧問
- ・ 亀井 めぐみ 東京インターナショナルスクール 保健室スクールナース
- ・ 倉橋 徒夢 特定非営利活動法人 在日ブラジル学校協議会 副理事長
- ・ 竹鼻 ゆかり 東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系養護教育講座 教授

Reference Material for Schools for Foreign Students : School Health Activities

Schools in Japan have been working on various school health activities to maintain and enhance the health condition of students, under laws and regulations. This document summarizes and introduces some of the activities as reference, for schools for foreign students in Japan.

What is school health?

As features of school health in Japan, schools have been engaged in both health management, such as health checks, health counseling and guidance, and health education through related subjects including the Health and Physical Education period; and also have used achievements of health education for health management.

Health education	Health management	
	For people	For object
Teaching of each subject (e.g. the Health and Physical Education period, Special Activities, etc.)	First aid, health checks, health observation, infection prevention, health counseling and guidance, etc.	Environmental hygiene management etc.

Individuals involved in school health

Various individuals such as teachers and those belonging to local related associations and organizations are involved in school health activities. This section indicates parties involved in such activities in public elementary and junior high schools and their specific roles.

Within school

- Yogo teacher**
A yogo teacher is a teaching staff, who plays a pivotal role to promote school health activities. Yogo teacher's function is first aid, health checks, health observation, infection prevention, environmental hygiene management, health counseling and guidance, school health room management, health organizational activities, and teaching in each subject.
- Health chief**
A health chief is a teaching staff, who manages issues related to school health, such as coordinating school health activities and whole school activities, developing a school health plan, and promoting health organizational activities.
- Class teacher**
As a class teacher always takes care of students in proximity, the teacher observes their daily health condition, provides health counseling and guidance to them, and checks environmental hygiene daily. For promoting school health activities, it is important for all teachers such as class teachers to work on activity together with a yogo teacher and a health chief as one team.
- Principal, and vice-principal**
School managers, such as the principal and the vice-principal, are responsible for organizing a school system through an organization management bringing out the strengths of various specialties of school staff to promote school health activities.
- School doctor, school dentist, and school pharmacist**
Schools are required to have a school doctor, a school dentist, and a school pharmacist. A school doctor and a school dentist are engaged in health checks and infection prevention measures. A school pharmacist works on inspections for environmental hygiene. They provide advice and suggestion from their professional viewpoints.

Development of school organizational framework

- Understanding and leadership of school managers are essential for operating school systems.
- Related school staff should be encouraged to have common understanding among each other and share the roles.

Beyond school premises

- Student's family**
It is important for schools to build relationship with students' families daily since schools need to obtain their understanding and cooperation to support students in terms of their health issues.
- Locally related institutions**
Schools need to tackle with students' health issues in cooperation with their families and locally related institutions. Primary locally related institutions include a child guidance center, a support center for persons with developmental disorders, a public health center, a mental health and welfare center, medical institutions, the police, and a juvenile support center.

What is a school health room?

Each school in Japan has a school health room for health checks, health counseling and guidance, and first aid; it is accordingly equipped with necessary instruments and materials to assist such functions. All students can use this room at any time, and it also provides a safety place for them.

What is health management?

Schools in Japan provide health managements including first aid, health checks, health observation, infection prevention, health counseling and guidance, and environmental hygiene management.

(4) セミナーや研修会等の開催、及び現地での外国人学校への相談対応
令和5年度は全3回のセミナー等を実施した。

(ア) 第1回セミナー

① 概要

タイトル	明日からはじめる 学校での保健衛生対策
開催日時	令和5年10月19日(木) 14:00~15:00
開催形態	Zoomを利用したオンライン開催 開催後、セミナーの様子をアーカイブ配信
参加対象	外国人学校の教職員(特に学校保健衛生の基準を持たない外国人学校の教職員)
プログラム	開会挨拶(5分) 文部科学省 講演 これだけは知っておきたい! 学校での保健衛生対応(35分) 全国養護教諭連絡協議会 顧問 浅野明美 先生 質疑応答(20分)
対応言語	・ 当日配信: 日本語、ポルトガル語 ・ アーカイブ配信: 日本語、ポルトガル語、英語
申込状況等	・ 申込者: 49名 ・ 当日参加者: 32名 ・ アーカイブ動画表示回数: 131回(令和6年3月25日時点)

**明日からはじめる
学校での保健衛生対策**
Let's begin health and hygiene measures in your school tomorrow!
Medidas de saúde e higiene nas escolas que podem começar a partir de amanhã

10月19日 木
14:00～15:00 (開場予定 14:30)
Thursday, October 19, 2023
14:00 to 15:00 (Registration open at 14:30)
19 de Outubro de 2023 (quinta-feira)
14:00-15:00 (a recepção a partir das 14:30)

オンライン (Zoom) / online (Zoom) アーカイブ配信 / Archive-viewing / Distribuição de arquivo

参加無料 / Admission free

明日から学校現場でご活用いただけるような「基礎的かつ実践的な保健衛生対策」について、学校の保健衛生の専門家から、分かりやすくお話しいたします。
In this seminar, experts on school health and hygiene will talk about "Fundamental and practical health and hygiene measures" in an easy-to-understand manner to help you to use them in your school setting, beginning tomorrow.
No seminário, especialista em saúde e higiene escolar explicará de forma fácil sobre as "Medidas Básicas e Práticas de Saúde e Higiene" que podem ser implementadas no ambiente escolar a partir de amanhã.

プログラム Program / Programação

開会挨拶 (5分)
Opening (5 minutes)
Saudação de abertura (5 minutos) 文部科学省 / MEXT

これだけは知っておきたい！学校での保健衛生対応 (35分)
Must know! How to undertake health and hygiene measures in a school. (35 minutes)
Você precisa saber isso! Medidas de saúde e higiene nas escolas (35 minutos)
全国養護教諭連絡協議会 顧問 浅野明美 先生
Akemi Asano/ Adviser of National Liaison Committee of Yogo Teacher
Akemi Asano/ Comitê Nacional de Ligação dos Professores de Yogo / Conselheiro

質疑応答 (20分)
Q & A (20 minutes)
Perguntas e respostas (20 minutos)

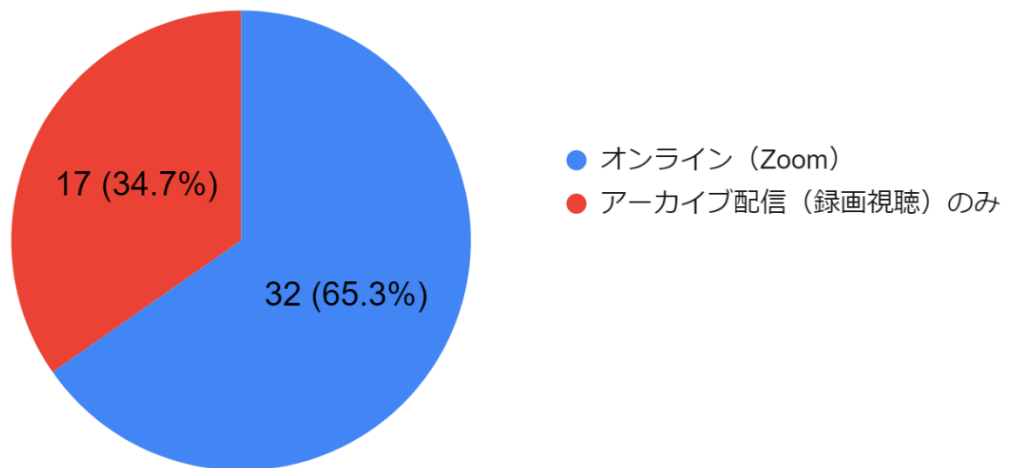
QRコードから申込みフォームにアクセスできます Application Form Formulário de inscrição

お申し込み・お問い合わせ 文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム事務局 (メディフォン株式会社)
〒105-0021 東京都港区東新橋 1-2-0 東新橋一丁目ビル 3F
Email: hofuj@mediphone.jp
TEL: 050-3187-8114 (平日 9:00-18:00) (多言語での相談窓口)

② 申込状況

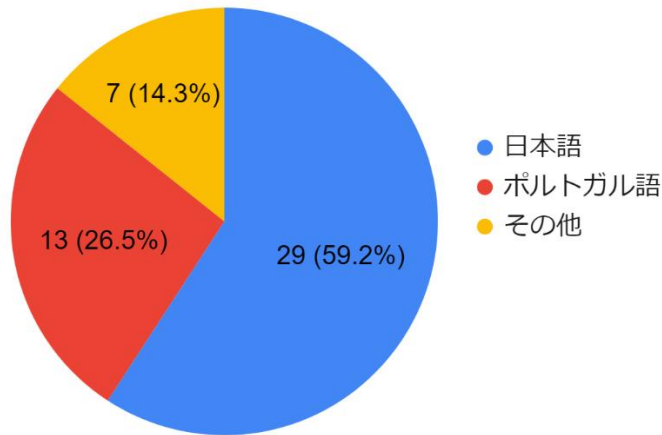
■ 希望参加方法

「オンライン (Zoom)」が 32 名 (65.3%) という結果となった。



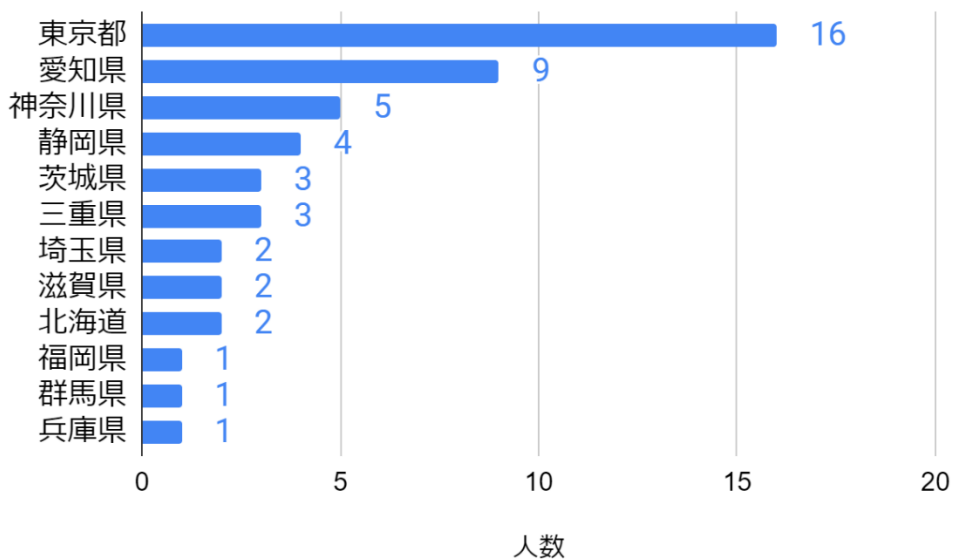
■視聴言語

「日本語」29名（59.2%）、「ポルトガル語」13名（26.5%）の順に多い結果となった。「その他」の内訳は英語6名、英語及びフランス語が1名であった。



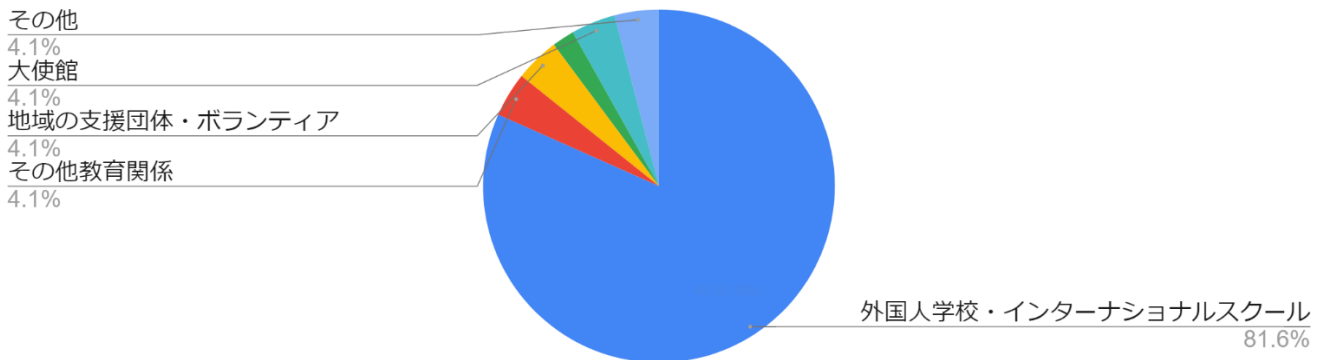
■都道府県

東京都16名、愛知県9名、神奈川県5名の順に多い結果となった。



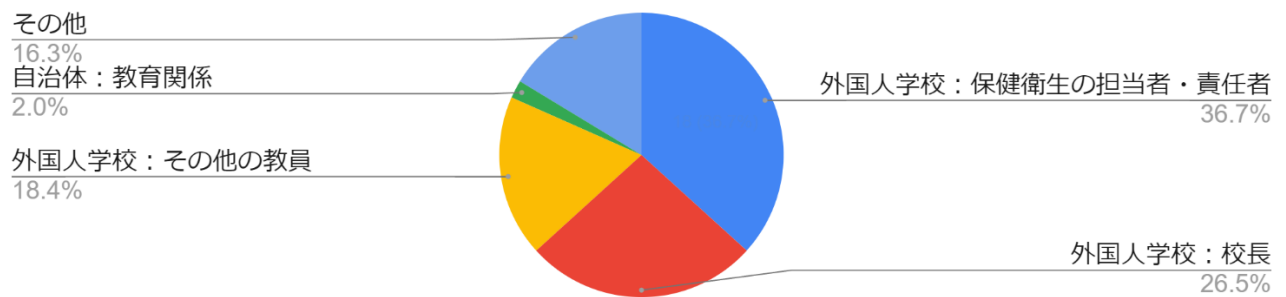
■所属

「外国人学校・インターナショナルスクール」が40名（81.6%）と最も多い結果となった。



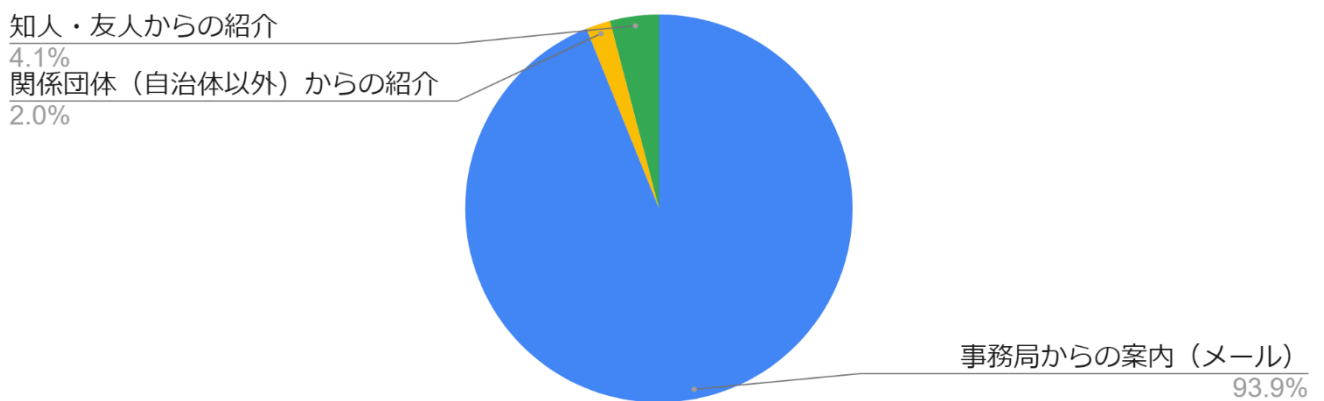
■ 立場

「外国人学校：保健衛生の担当者・責任者」18名（59.2%）、「外国人学校：校長」13名（26.5%）、「外国人学校：その他の教員」9名（18.4%）の順に多い結果となった。



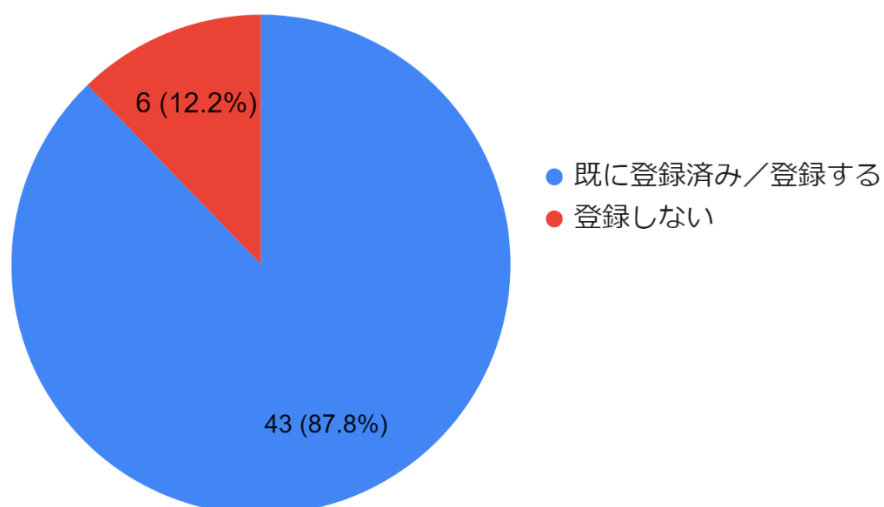
■ 流入経路

「事務局からの案内（メール）」が46名（93.9%）と大半を占めた。



■ メルマガ登録

「既に登録済み／登録する」が43名（87.8%）と大半を占めた。



③ 質問対応

■当日質問：5問（すべて当日回答）

「感染症による学級閉鎖の基準」「子供の健康状態の観察・記録・共有方法」「保健室がない場合の対応」「虫刺されへの対応」について質問があった。

④ アンケート結果

■当日参加者：31名（63.3%）

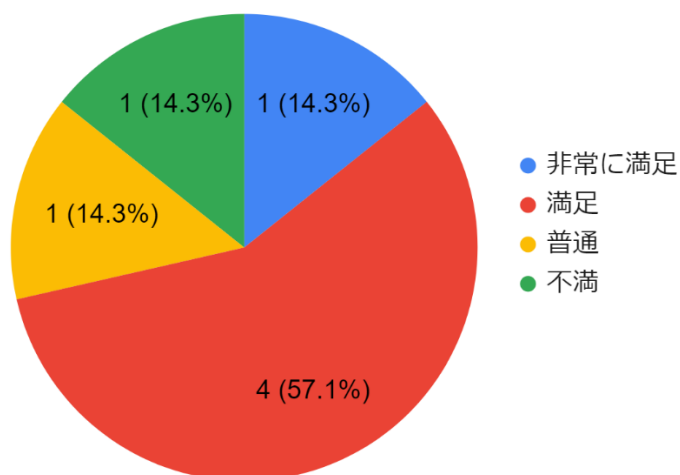
■アンケート回答者：7名（22.6%）

※当日、日本語のアンケートが表示されないエラーがあり、回答数が伸び悩んだ。

<以下、アンケート回答内訳>

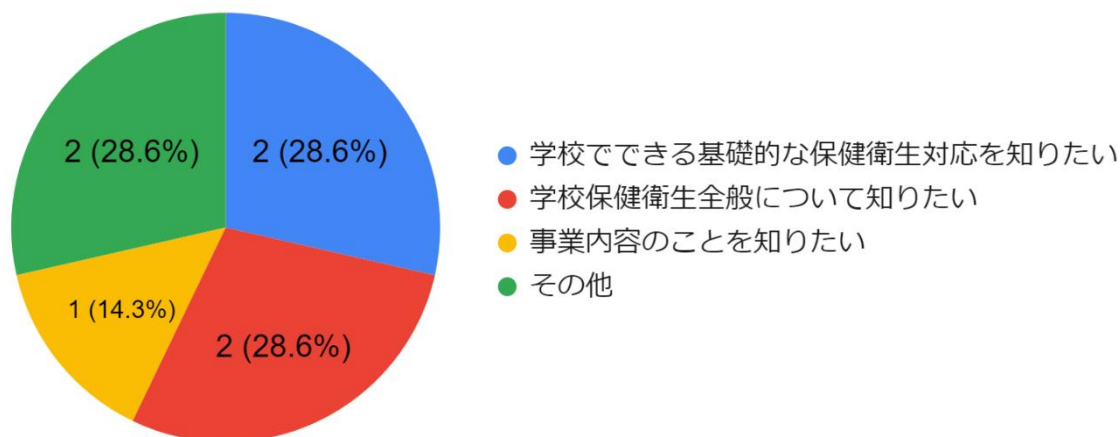
■満足度

「非常に満足」「満足」合わせて5名（71.4%）という結果となった。



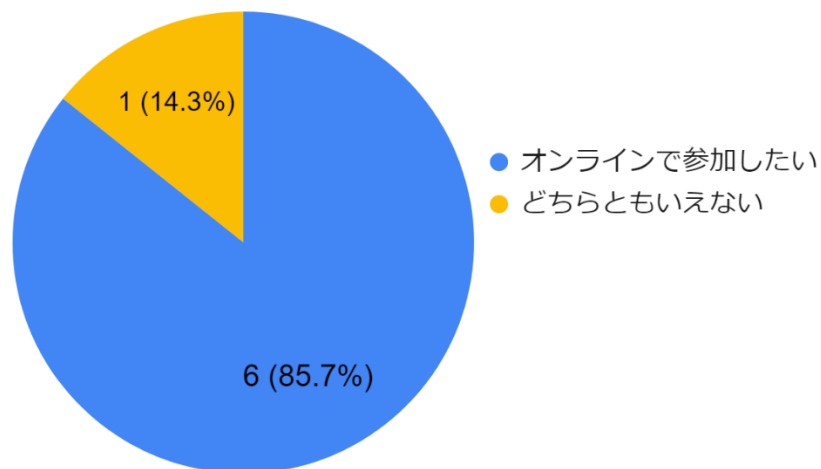
■参加理由

「学校のできる基礎的な保健衛生対応を知りたい」「学校保健衛生全般について知りたい」がそれぞれ2名（各28.6%）という結果となった。



■今後のセミナーの希望参加形態

「オンラインで参加したい」が6名（85.7%）と大半を占めた。「対面で参加したい」「参加したくない」との回答はなかった。



(イ) 第2回セミナー

① 概要

タイトル	こどもの健康を守るために健康診断が果たす役割～ブラジル人学校での実施事例から～
開催日時	令和5年12月7日（木）16:00～17:10
開催形態	Zoomを利用したオンライン開催 開催後、セミナーの様態をアーカイブ配信
参加対象	外国人学校関係者、医療関係者、自治体、NPO等関係団体の方
プログラム	開会挨拶（5分） <div style="text-align: right;">文部科学省</div> 講演 外国人学校における健康診断実施事例の紹介～医療機関の視点～（30分） 愛知県済生会リハビリテーション病院 名誉院長 長嶋正實 先生 講演 健康診断 実施した効果と継続する理由（20分） イザキ・ニュートン学校 代表取締役 北田ルーカス 様 質疑応答（15分）
対応言語	・ 当日配信：日本語、ポルトガル語 ・ アーカイブ配信：日本語、ポルトガル語、英語
申込状況等	・ 申込者：56名 ・ 当日参加者：29名 ・ アーカイブ動画表示回数：106回（令和6年3月25日時点）

こどもの健康を守るために健康診断が果たす役割
 —ブラジル人学校での実施事例から—
Health Checks play a Role in Protecting Children's Health
 : Examples of Implementation in Brazilian Schools
O Papel dos Exames de Saúde para a Proteção da Saúde das Crianças
 : Exemplos de implementação em escolas brasileiras

参加無料
 Admissão livre de graça

2023年 **12月7日** 木
16:00~17:10
Thursday, December 7, 2023
16:00-17:10
7 de dezembro de 2023 (quinta-feira)
16:00-17:10

オンライン (Zoom)
 online (Zoom)

アーカイブ配信
 Archive viewing
 Distribuição de arquivo

セミナーでは「ブラジル人学校での健康診断実施事例」について、健康診断を実施した医療機関および外国人学校の方からお話しいただきます。現地会場参加者には、実際に健康診断で使われる器具に触れていただく機会もご用意しております。

In this seminar, representatives from medical institutions and foreign schools who have conducted health checks will talk about "Examples of implementation of health checks in Brazilian Schools". Participants attending the on-site venue will also be able to experience first-hand the equipment used in the health checks.

No seminário, os representantes da instituição médica que realizou os exames de saúde e da escola estrangeira farão sobre as "Exemplos de implementação dos exames de saúde em escolas brasileiras". Os participantes presenciais terão oportunidade de manipular os equipamentos utilizados nos exames de saúde.

プログラム Program / Programação

1. 開会挨拶 (15分) Opening (15 minutes) / Saudação de abertura (15 minutos) 文部科学省 | Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology | MEXT
2. 外国人学校における健康診断実施事例の紹介—医療機関の視点 (35分) Introduction regarding examples of implementation of health checks at schools for foreign students: Perspectives of medical institutions (35 minutes) Apresentação de exemplos de implementação dos exames de saúde nas escolas estrangeiras: Os pontos de vista das instituições médicas (35 minutos) Masami Nagashima | Honorary director of Aichi-prof Saiseikai Rehabilitation Hospital Masami Nagashima | Diretor honorário do Hospital de Reabilitação Saiseikai de Aichi
3. 健康診断実施した効果と継続する理由 (15分) Health checks, effects of implementation and reasons for continuation (15 minutes) Resultados da implementação dos exames de saúde e motivos para dar continuidade (15 minutos) イザキ・ニュートン学校 | Colégio Isaac Newton
4. 質疑応答 (15分) Q & A (15 minutes) / Perguntas e respostas (15 minutos)
5. 健診器具体験会 (20分) 健診器具体験会 Hands-on experience with equipment used for health checks (20 minutes) *Only at the on-site venue Sessão de experimentação dos equipamentos utilizados nos exames de saúde (20 minutos) *Somente presencial

QRコードから申し込みフォームにアクセスできます

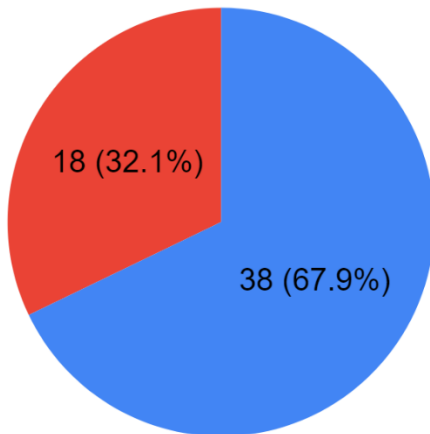
申し込みフォーム Application Form Formulário de inscrição

お申し込み・お問い合わせ 文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム事務局 (メディアフォン株式会社)
 〒105-0021 東京都港区東新橋1-2-5 東新橋一丁目ビル3F
 Email: hfs@mediphone.jp / TEL: 050-3187-8114 (平日 9:00-18:00) (多言語での相談窓口)

② 申込状況

■ 希望参加方法

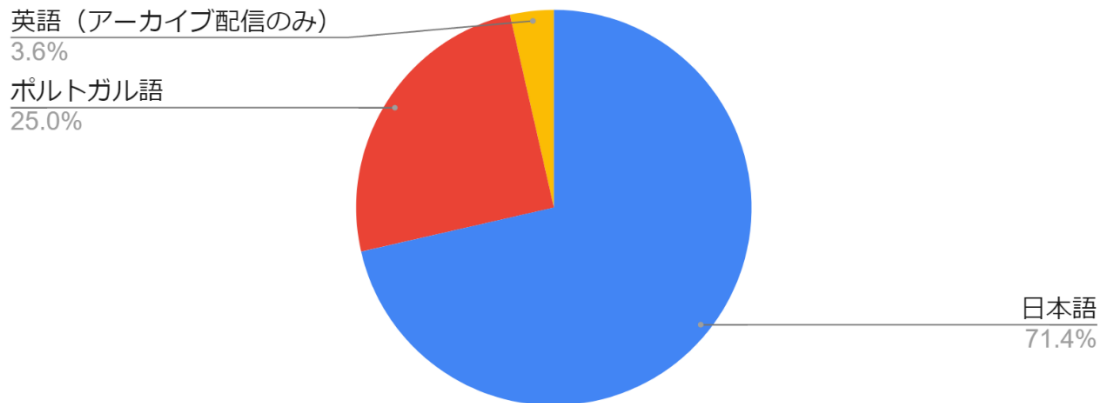
「オンライン (Zoom) 」が 38 名 (67.9%) という結果となった。



- オンライン (Zoom)
- アーカイブ配信 (録画視聴) のみ

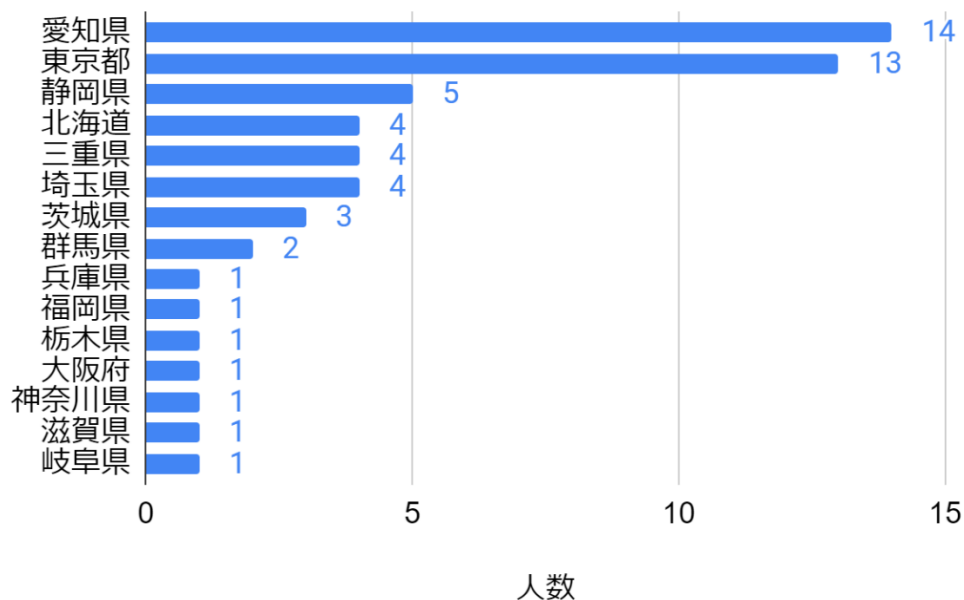
■視聴言語

「日本語」40名（71.4%）、「ポルトガル語」14名（25.0%）の順に多い結果となった。



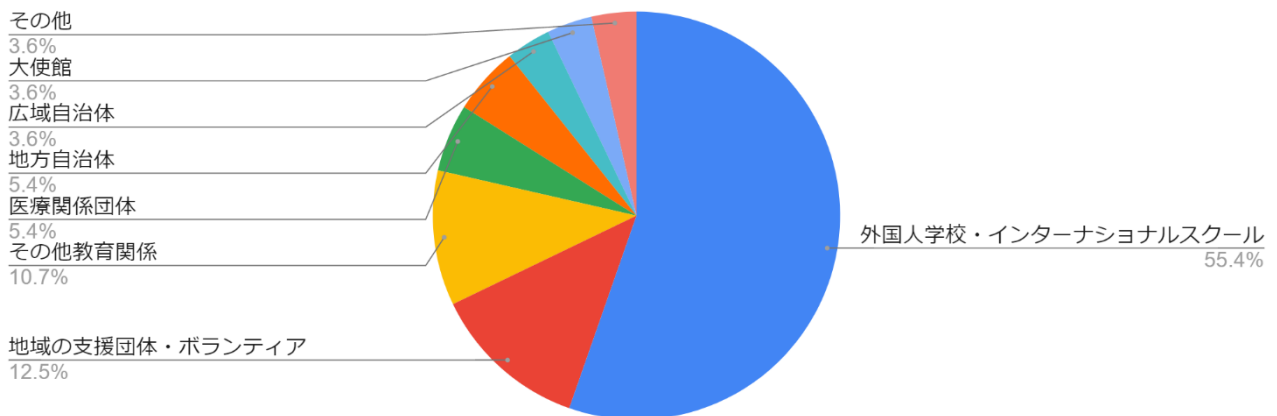
■都道府県

愛知県 14名、東京都 13名、静岡県 5名の順に多い結果となった。



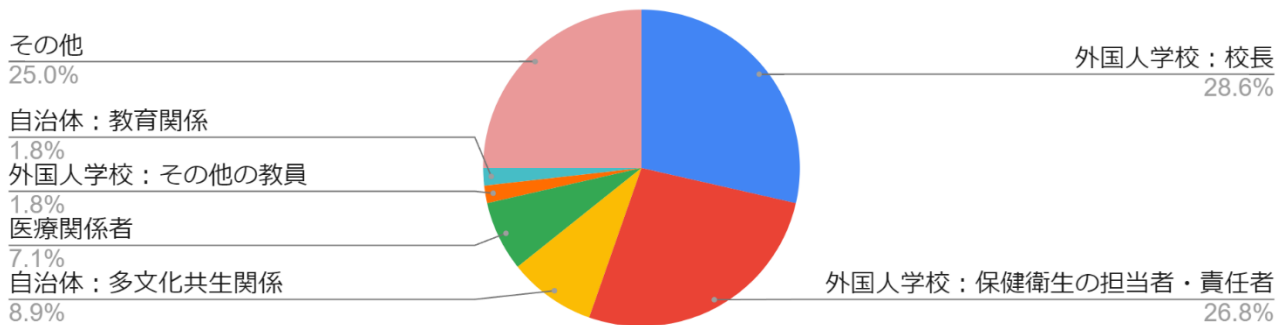
■所属

「外国人学校・インターナショナルスクール」が31名（55.4%）、「地域の支援団体・ボランティア」7名（12.5%）、「その他教育関係」6名（10.7%）の順に多い結果となった。



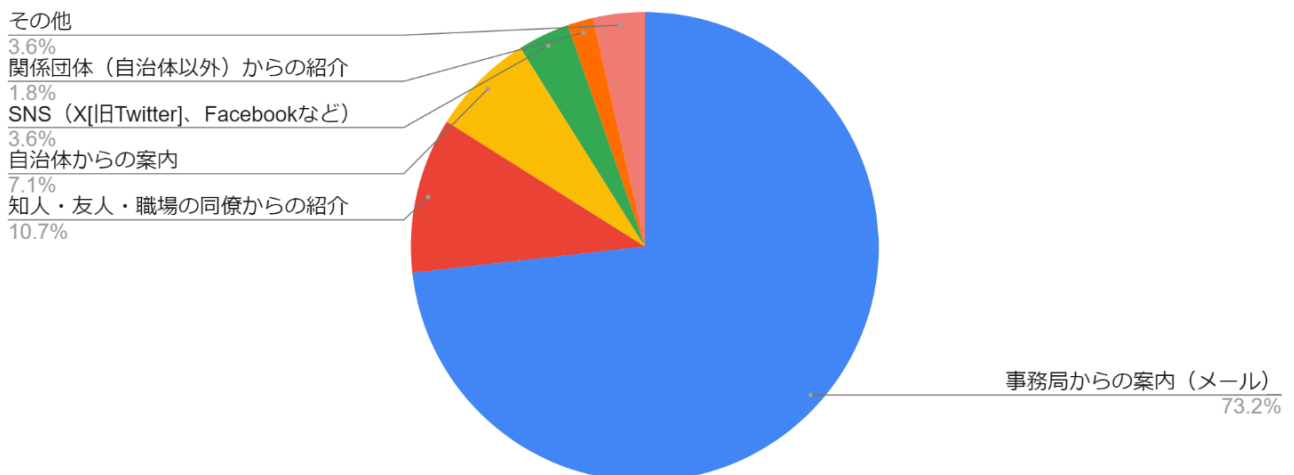
■ 役職等

「外国人学校：校長」16名（28.6%）、「外国人学校：保健衛生の担当者・責任者」15名（26.8%）の順に多い結果となった。次いで、「その他」以外では、「自治体：多文化共生関係」5名（8.9%）、「医療関係者」4名（7.1%）が多い結果となった。



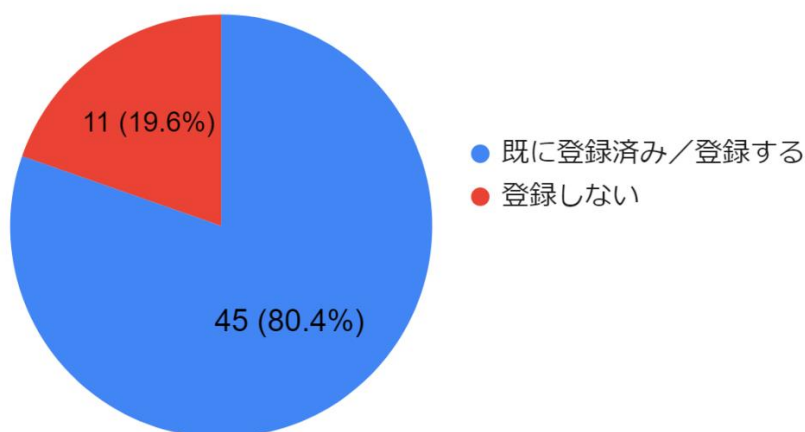
■ 流入経路

「事務局からの案内（メール）」41名（73.2%）、「知人・友人・職場の同僚からの紹介」6名（10.7%）の順に多い結果となった。



■ メルマガ登録

「既に登録済み／登録する」が45名（80.4%）と大半を占めた。



③ 質問対応

■当日質問：6問（うち1問は後日回答）

「健診の内容・課題・工夫」「健診実施の手続き」「近隣医療機関との連携」について質問があった。

④ アンケート結果

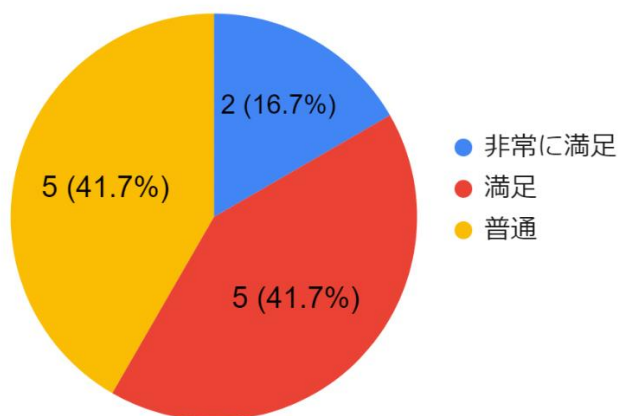
■当日参加者：29名（51.8%）

■アンケート回答者：12名 ※うち3名は、アーカイブ配信視聴後の回答者

<以下、アンケート回答内訳>

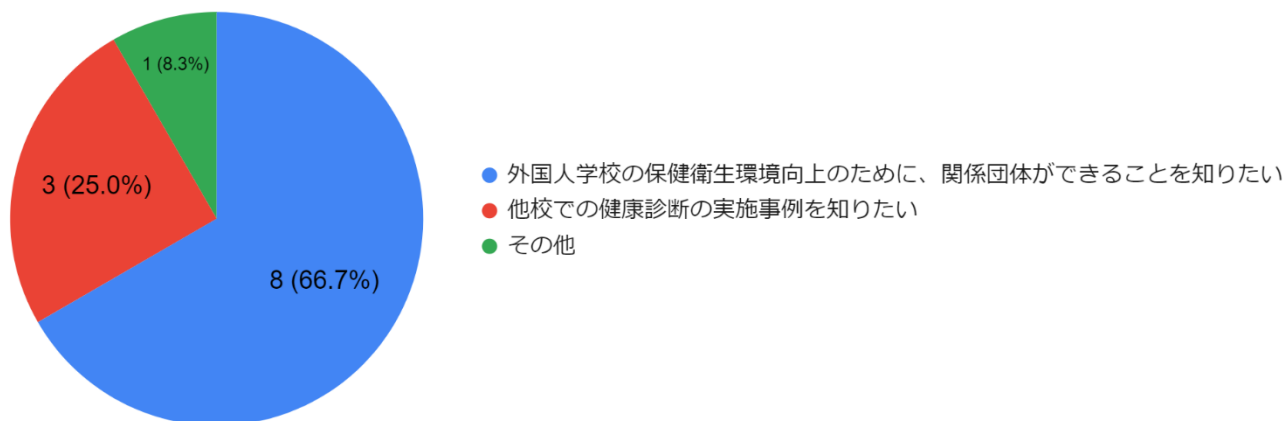
■満足度

「非常に満足」「満足」合わせて5名（58.3%）という結果となった。



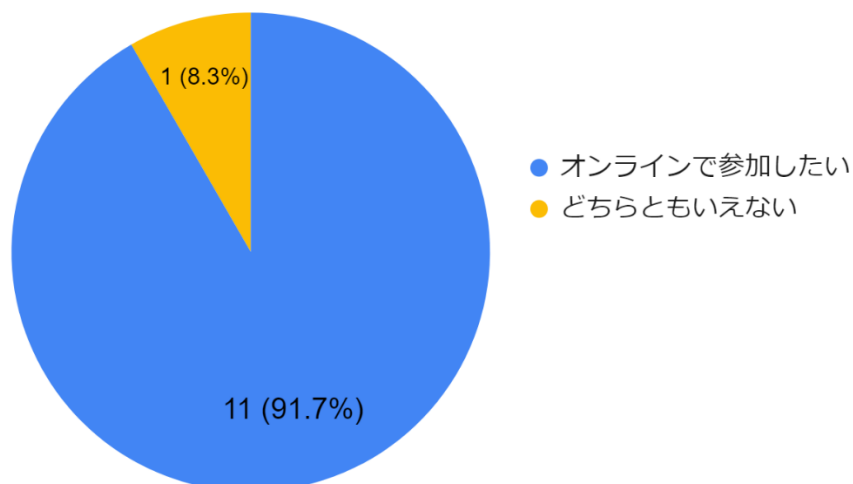
■参加理由

「外国人学校の保健衛生環境向上のために、関係団体ができることを知りたい」8名（各66.7%）が最も多い結果となった。



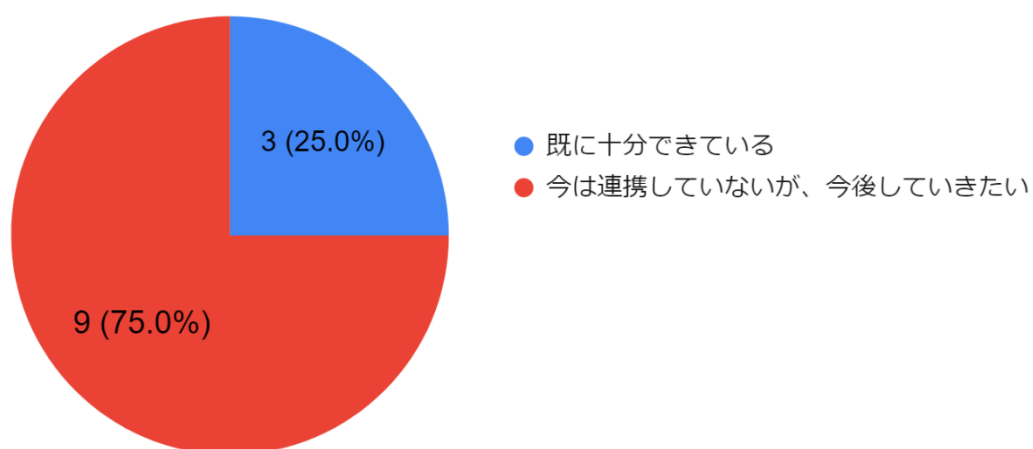
■今後のセミナーの希望参加形態

「オンラインで参加したい」が 11 名（91.7%）と大半を占めた。「対面で参加したい」「参加したくない」との回答はなかった。



■<全体>今後の地域連携の希望

「今は連携していないが、今後していきたい」が 9 名（75.0%）、「既に十分できている」が 3 名（25.0%）という結果であった。「今は連携しておらず、今後考えていない」との回答はなかった。



「今は連携していないが、今後していきたい」と回答した 9 名の内訳は、外国人学校関係者が 2 名、医療団体の職員が 1 名、自治体・国際交流協会・その他地域の関係者が 6 名という結果であった。

(ウ) 第3回セミナー

① 概要

タイトル	教職員全員で知っておきたい～アレルギーと食中毒の基礎知識～
開催日時	令和6年3月5日(火) 16:00～17:00
開催形態	Zoomを利用したオンライン開催 開催後、セミナーの様子をアーカイブ配信
参加対象	外国人学校関係者、医療関係者、自治体、NPO等関係団体の方
プログラム	開会挨拶 (5分) 文部科学省 講演 教職員全員で知っておきたいアレルギーと食中毒の基礎知識 (40分) 全国養護教諭連絡協議会 顧問 浅野明美 先生 質疑応答 (10分)
対応言語	・ 当日配信：日本語、ポルトガル語 ・ アーカイブ配信：日本語、ポルトガル語、英語
申込状況等	・ 申込者：47名 ・ 当日参加者：12名 ・ アーカイブ動画表示回数：52回(令和6年3月25日時点)

教職員全員で知っておきたい
アレルギーと食中毒の基礎知識 参加無料
Admission free
de graça

The Basic Knowledge of Allergies and Food Poisoning that All Teaching Personnel Should Know About
Conhecimentos básicos sobre alergias e intoxicações alimentares que todos os professores e funcionários devem saber

2024年3月5日(火)
16:00～17:00
Tuesday, March 5, 2024
16:00-17:00
5 de março de 2024 (terça-feira)
16:00-17:00

オンライン(Zoom) アーカイブ配信
Archive-viewing
Distribuição de arquivo

セミナーでは「教職員全員で知っておきたいアレルギーと食中毒の基礎知識」について、学校の保健衛生の専門家から、分かりやすくお話しできます。
In this seminar, an expert in health and hygiene at school will provide a simple explanation regarding "The Basic Knowledge of Allergies and Food Poisoning that All Teaching Personnel Should Know About".
No seminário, a especialista em saúde e higiene escolar explicará de forma fácil sobre "Conhecimentos básicos sobre alergias e intoxicações alimentares que todos os professores e funcionários devem saber".

プログラム Program / Programação

1. 開会挨拶 (5分)
Opening (5 minutes) / Saudação de abertura (5 minutos) 文部科学省
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
MEXT

2. 教職員全員で知っておきたいアレルギーと食中毒の基礎知識 (40分)
The Basic Knowledge of Allergies and Food Poisoning that All Teaching Personnel Should Know About (40 minutes)
Conhecimentos básicos sobre alergias e intoxicações alimentares que todos os professores e funcionários devem saber (40 minutos)
全国養護教諭連絡協議会 顧問 浅野明美 先生
Akemi Asano/ Advisor of National Liaison Committee of Yogo Teacher
Akemi Asano/ Comitê Nacional de Ligação dos Professores de Yogo Conselheiro

3. 質疑応答 (10分)
Q & A (10 minutes) / Perguntas e respostas (10 minutos)

QRコードから
申込みフォームに
アクセスできます

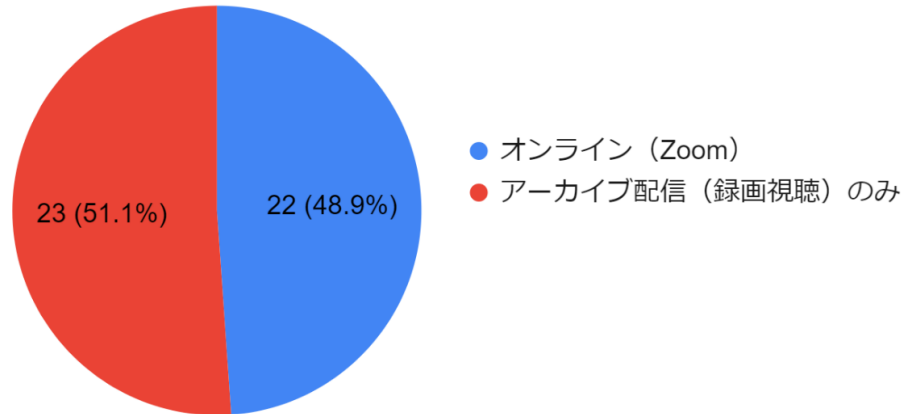
申込みフォーム Application Form Formulário de inscrição

お申し込み・お問い合わせ 文部科学省外国人学校保健衛生プラットフォーム事務局(メディアフォン株式会社)
〒115-0071 東京都港区東新橋1-2-1 東新橋一丁目ビル3F
Email: hsf@mediphone.jp / TEL: 050-3187-8114 (平日 9:00-18:00) (多言語での相談窓口)

② 申込状況

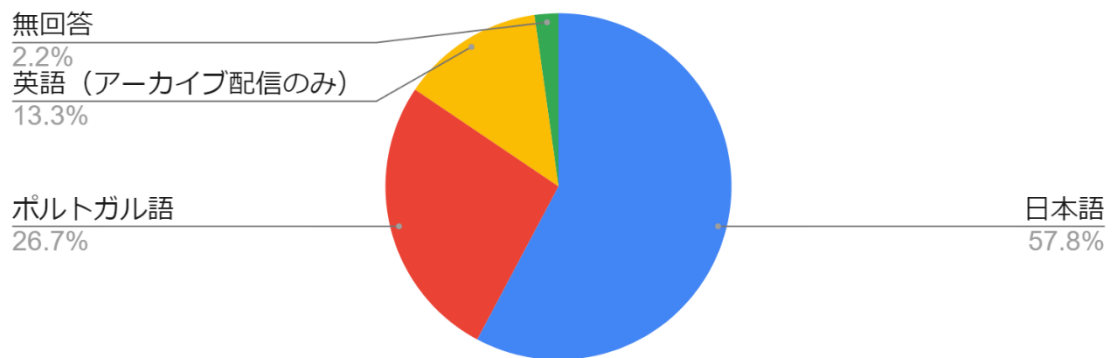
■希望参加方法

オンライン（Zoom）が 22 名（48.9%）、アーカイブ配信（録画視聴）のみが 23 名（51.1%）とほぼ同数であった。



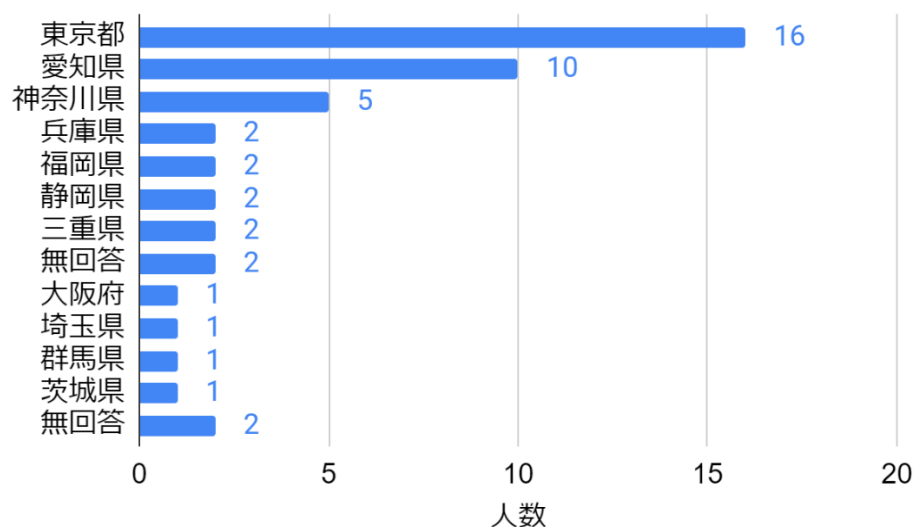
■視聴言語

日本語 26 名（57.8%）、ポルトガル語 12 名（26.7%）、英語 6 名（13.3%）という結果となった。



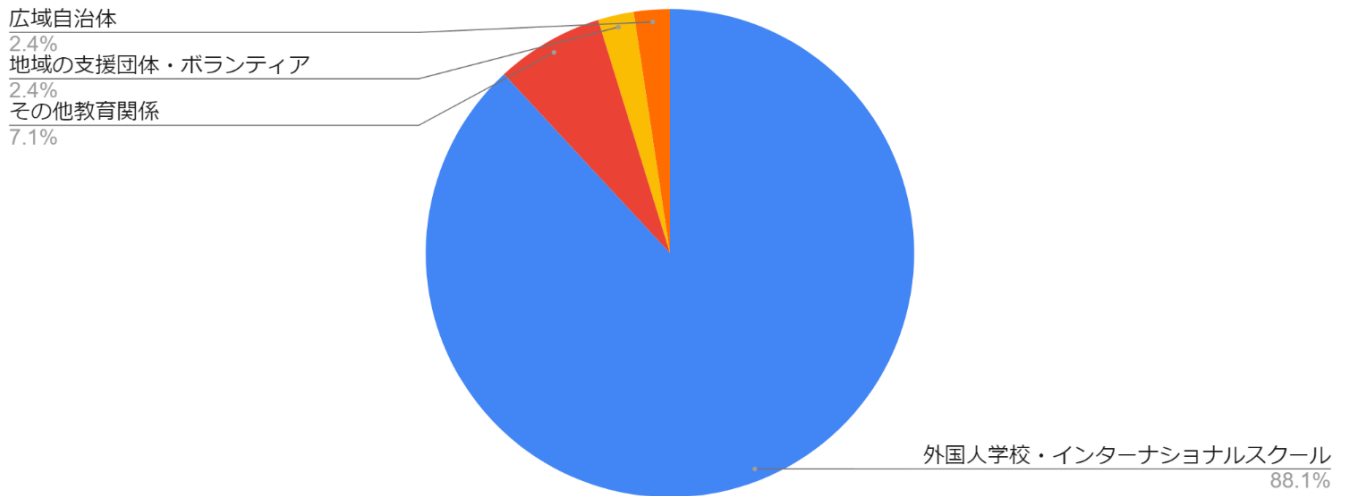
■都道府県

東京都 16 名、愛知県 10 名、神奈川県 5 名の順に多い結果となった。



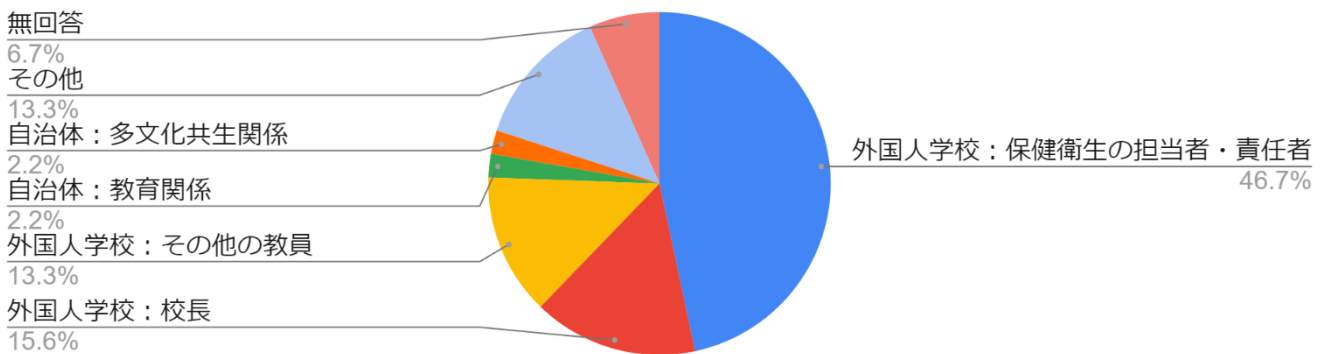
■所属

外国人学校・インターナショナルスクールが 37 名（88.1%）と最も多い結果となった。



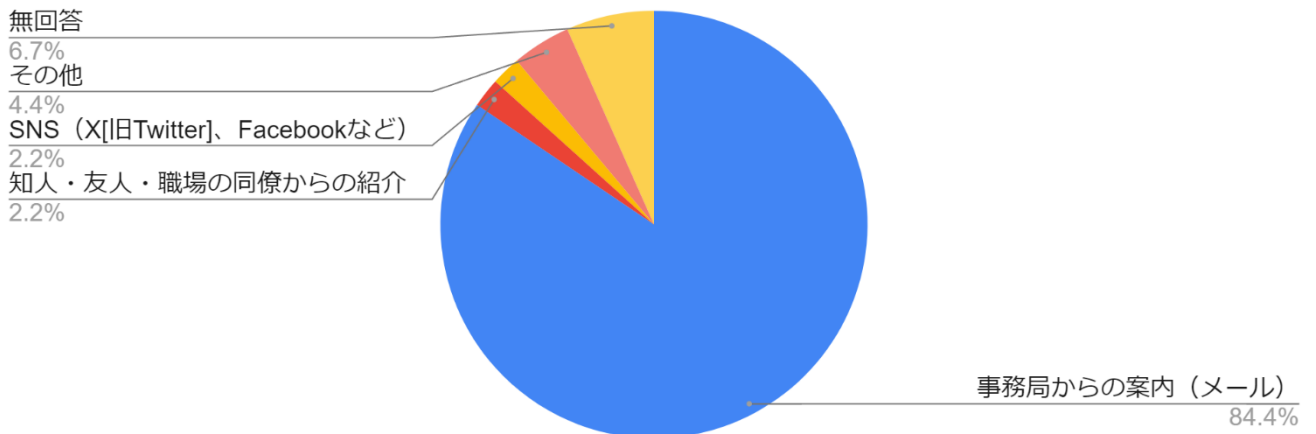
■役職等

外国人学校：保健衛生の担当者・責任者 21 名（46.7%）、外国人学校：校長 7 名（15.6%）、外国人学校：その他の教員 6 名（13.3%）の順に多い結果となった。



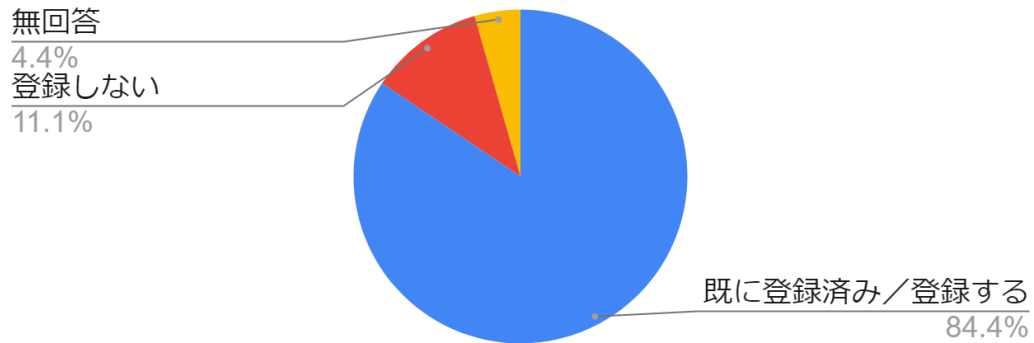
■流入経路

事務局からの案内（メール）が 38 名（84.4%）と最も多い結果となった。



■メルマガ登録

既に登録済み／登録するが 38 名（84.4%）と最も多い結果となった。



③ 質問対応

■当日質問：2 問（すべて当日回答）

「緊急時の対応方法」「救急車を呼ぶ時のポイント」について質問があった。

④ アンケート結果

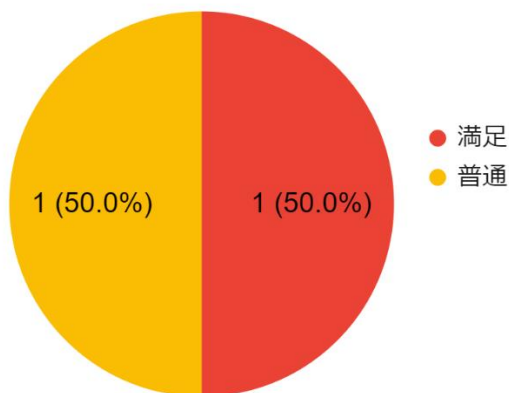
■当日参加者：12 名（申込者全体の 26.7%、当日参加希望者の 54.5%）

■アンケート回答者：2 名

<以下、アンケート回答内訳>

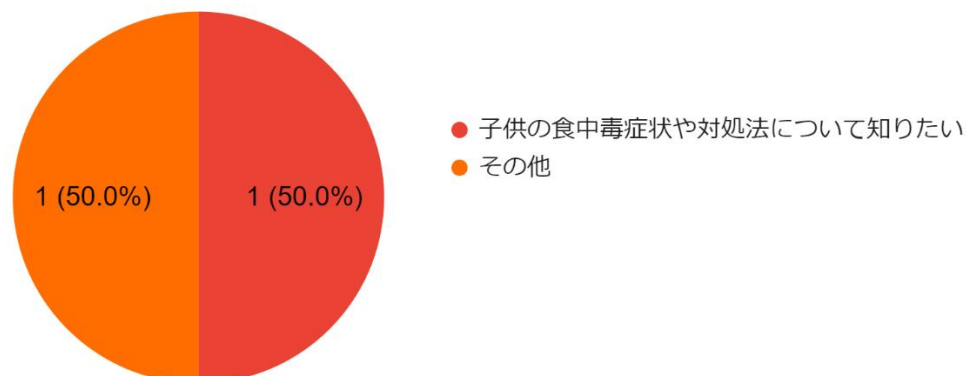
■満足度

「満足」「普通」がそれぞれ 1 名（各 50%）という結果となった。



■参加理由

「子供のアレルギー症状や対処法について知りたい」「その他」がそれぞれ 1 名（各 50%）という結果となった。



■今後のセミナーの希望参加形態

「オンラインで参加したい」が2名（100%）という結果となった。

(5) 外国人学校の保健衛生の確保に有益な情報の収集・整理

外国人学校の保健衛生の確保に有益な情報の収集を行うため、外国人学校8件（訪問9回）、地方自治体2件、その他団体5件を訪問し、「(1)多言語での情報発信等」及び「(4)セミナーや研修会等の開催、及び現地での外国人学校等への相談対応」と兼ねてヒアリング調査を行った。ヒアリング結果の概要は以下のとおりである。

【外国人学校の衛生環境整備状況について】

- ① 外国人学校の保健衛生環境整備状況については、保健室が設置され、健康診断も実施されるなど一条校に近いレベルで整備されている施設がある一方で、各家庭に任せており整備が進んでいない施設もあり、整備状況は外国人学校によってバラツキがみられた。

【保健衛生に関する情報へのアクセスについて】

- ① 保健衛生に関する情報の入手については、保健担当の教職員や学校運営責任者が主体となって情報収集を行っている施設が多かった。
 - ✓ 文部科学省が公開している一条校向けの資料を参照しているとの声が多かった。
 - ✓ 上記以外の方法としては、保健所への問合せ、厚生労働省ホームページの閲覧、隣接する認可外保育所向けの地方自治体青少年局からの情報提供、他校に児童を通わせていた保護者からの口コミ情報などが挙げられた。
- ② 主な外部の連携先については、県や市など地方自治体のほか、国際交流協会、近隣の医療機関、公立学校及び在日ブラジル学校協議会などであった。

【保健衛生に関する情報のニーズ・当事業への要望について】

- ① ほとんどの外国人学校の方から保健衛生の重要性を認識しているとの声が聞かれた一方で、他に優先して行う業務等を抱えている関係で、保健衛生に関する取組は後回しになっているケースが多いという声があった。
- ② 保健衛生に関する問合せは、外国人学校の教職員等だけではなく、生徒の保護者からも外国人学校に寄せられており、外国人コミュニティにおいて子供の健康に対する関心が高いことがうかがえた。
- ③ 生徒の保護者の価値観や母国の慣習など様々な理由により、医療機関への受診を控える傾向があるとの回答も一部の施設では聞かれた。
- ④ 学校運営における予算の都合で、公立学校と同じような保健衛生の設備等を整えることが難しいとの声もあった。

また、電話等による本事業の広報活動とあわせてヒアリングを行った内容は以下のとおりである。

【広報活動とあわせて実施したヒアリング内容】

年月日	手段	属性	ヒアリング内容
R5. 4. 21	電話	学校	健康診断は基本的なもののみであるため、レントゲンや心電図なども行いたい、対応できるクリニックがない。
R5. 4. 21	電話	学校	教職員の中には日本語が話せない者もいるため、健康診断ができる病院を探すのが大変。
R5. 4. 27	電話	学校	健康診断について、小学生以下は学校が予約して病院へ連れていくが、それ以上と教職員は個人で行くよう指示している。費用を負担しなければならず、学校に医療従事者を派遣などしてもらえたら助かる。
R5. 4. 27	電話	学校	県や市から日本語教員の派遣をしてもらっているが、より充実すればありがたい。
R5. 4. 27	電話	学校	児童と意思疎通が出来ないことがある。また、保護者の日本語が不自由なため、通訳を必要とする場合がある。国や地方自治体からの情報提供を希望する。
R5. 4. 27	電話	学校	養護教諭・保健室設置の費用面サポートが欲しい。
R5. 4. 28	電話	学校	コロナ流行時、検査キットを用意するのが大変だった。検査キット入手できなかったため、国・地方自治体が備蓄して配布してほしい。
R5. 4. 28	電話	学校	保護者の中には、英語・日本語どちらも不得手な場合があり、コミュニケーションを取るのが難しいケースがある。
R5. 4. 28	電話	学校	医療システムについて生徒・保護者の認識が日本と異なるケースがある。
R5. 5. 18	電話	学校	国によって予防接種の基準が異なるため、予防接種推奨リストがあればありがたい。
R5. 6. 1	電話	学校	健康診断を実施したいと考えているが、ノウハウがない。
R5. 6. 8	電話	学校	経済的問題で、保健室を設置できず、児童の健康診断も実施できない。応急処置の対応について学びたい。健康診断の免除があれば有難い。
R5. 6. 22	電話	自治体	予算の捻出が課題。他部署・他機関への依頼は強制力がなく少し弱い。どの部署が動いたら良いか、国がはっきりさせると動きやすい。
R5. 6. 22	電話	学校	マスク着用の方針など、どこまで必要か、正しい情報はどれか分からないことが多かった。日本人職員の多くは雇用されているわけではなく、感染しても学校として保障ができない状態だった。気軽に病院に行けない無保険の子もいる。保健所と繋ごうとしたが、行けなかったケースもある。
R5. 6. 22	訪問	自治体	県側には学校側に指示する法的な行使権がない。ブラジル人コミュニティに必要な情報を迅速に届け切れていない。
R5. 6. 23	訪問	自治体	可能であれば健康診断を実施したいが、現状では難しい。コロナ・熱中症・インフルエンザについて知りたい。

(6) 成果報告書の作成、及び成果の普及促進

成果報告書は年度ごとに中間報告書・最終報告書の作成を行うこととしており、本書を令和5年度の最終報告書と位置付けている。

成果の普及促進は、「(1)多言語での情報発信等」、「(4)セミナーや研修会等の開催」及び「(5)外国人学校の保健衛生の確保に有益な情報の収集・整理」と合わせて実施した。

本事業で実施した各取組の普及状況や、外国人学校における保健衛生に関する取組の推進状況については、アンケートにより確認した。

① アンケート概要

タイトル	保健衛生の取組状況についてのアンケート
実施期間	令和6年3月1日(金)～3月15日(金)
対象	外国人学校の教職員
実施方法	メールマガジンの配信リストのうち、外国人学校所属として登録されているアドレス(243件)宛に送信

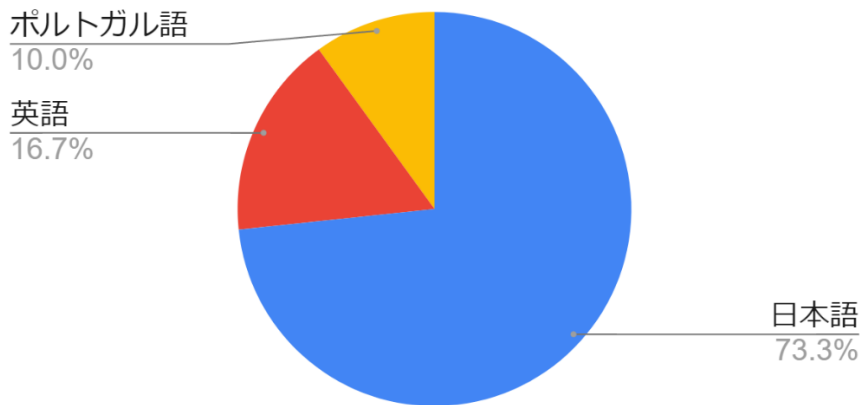
② アンケート結果

■アンケート回答者：30名(回答率12.3%)

<以下、アンケート回答内訳>

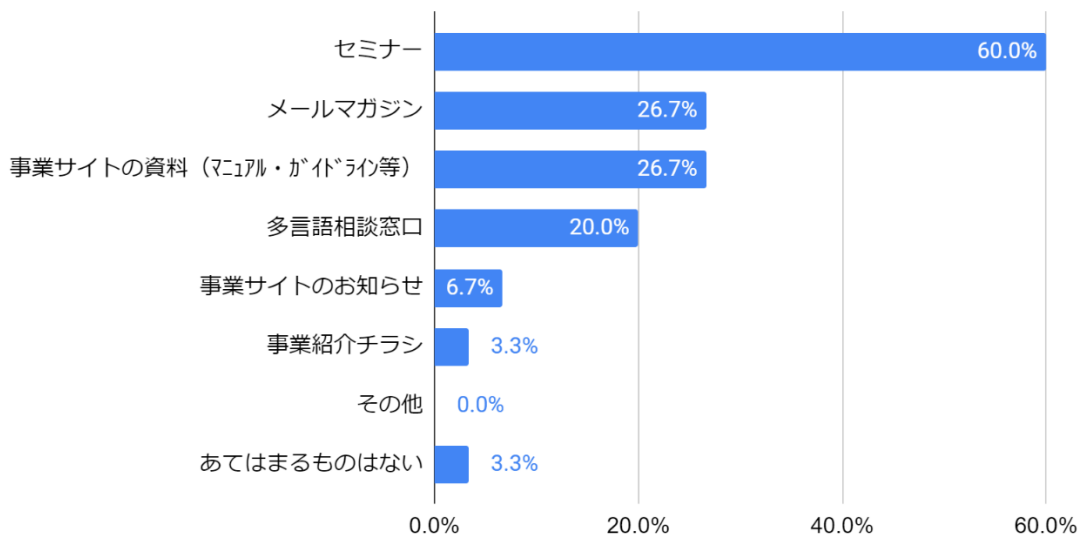
■回答言語

日本語が22名(73.3%)で最も多く、次いで英語が5名(16.7%)であった。

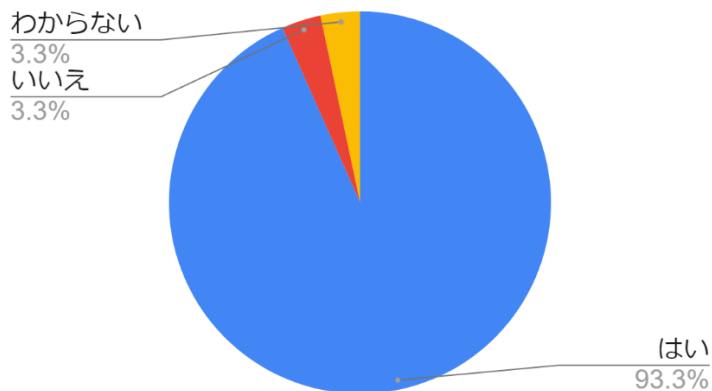


■本事業の取組のうち参考になったもの

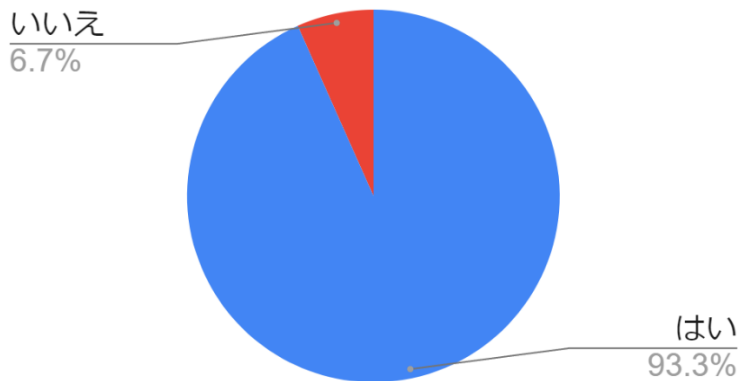
「セミナー」が60.0%で最も多く、次いで「メールマガジン」及び「事業サイトの資料(マニュアル・ガイドライン等)」が26.7%であった



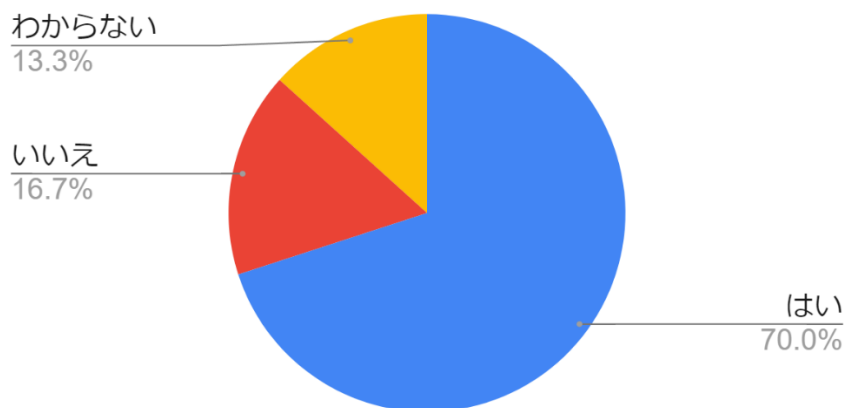
■2023年に保健衛生に関する取組みを実施したか
「はい」が28名（93.3%）であった。



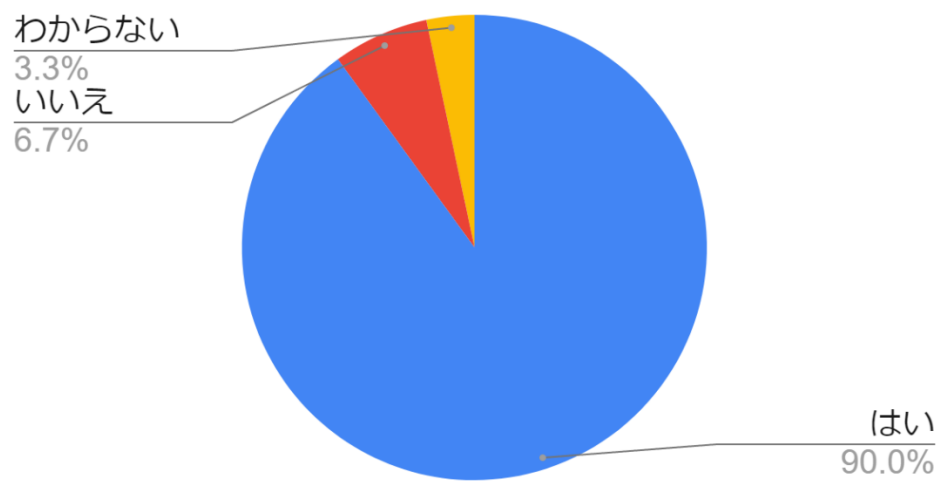
■2023年に学校内で保健衛生に関する内容を周知したか
「はい」が28名（93.3%）であった。



■2022年に比べて保健衛生に関する取組みが増加したか
「はい」が21名（70.0%）で最も多く、次いで「いいえ」が5名（16.7%）であった。



■2024年に保健衛生に関する取組みを実施する予定はあるか
「はい」が27名(90.0%)であった。



3. 今後の課題について

(1) 外国人学校を取り巻く実態の情報収集を経て、特定の施設や地域にフォーカスして好事例収集を進める。

地域や学校種別によって異なるニーズを的確に把握するため、今年度上半期は外国人学校等への現地訪問を積極的に行った。実態把握が進んだ一方で、保健衛生環境の整備状況については施設間での差が大きいことが見えてきている。本事業では、日本語が分からない等の理由により保健衛生環境の整備に関するノウハウを得ることが難しいケースへの対応に特に取り組むべきであるとする。次年度は、保健衛生環境改善に優れた成果を上げている地域や外国人学校の発掘に引き続き取り組むほか、その施設や地域の活動を横展開するための情報発信を検討する。

(2) 外国人学校のニーズに応えるテーマ設定・開催方法・場所等を検討

日々の業務で多忙であったり、生徒の保護者もダブルワークで働いていたりするなど、外国人学校の関係者は日々時間に追われており、保健衛生に関する情報を得づらいなどの課題が見えている。本事業において保健衛生環境整備に関する情報発信を行う際は、このような状況を理解して手法を選択する必要がある。医療機関や地方自治体など地域の関係機関とのつながりを構築したいという外国人学校のニーズがあると考え、外国人学校の関係者を面で支えるため、次年度は、特定の地域におけるオフラインまたはオンラインとの併用による関係者同士の顔合わせの場を設けることを検討している。

(3) 関係機関への情報発信による協力体制を呼びかけ

地方自治体や医療機関をはじめとする関係機関の外国人学校に対する関わりの度合は、地域によって差が大きいことがわかってきた。加えて、地方自治体においては担当部署が決まっていなかったり、外国人学校の実情を把握していなかったりすることから、本事業の周知を呼び掛けても協力が得にくいケースが散見された。このため、外国人学校の情報収集や情報発信を行う際、こうした関係機関等への情報発信も引き続き行うことが重要であるとする。また、外国人学校と関係機関の連携による好事例を発信することが、特に地方自治体等への訴求にあたっては効果的であると考えられるため、積極的に事例の発掘とその発信に注力していく考えである。

上記のような考えのもと、外国人学校の保健衛生環境を向上し、外国人の子供たちの健康を確保するため、引き続き事業運営を行う。

以上